

第1学年 音楽科学習指導案

- 1 題材名 和音の響きを味わいながら旋律をつくろう
創作活動1 ～カノン進行（C-G-Am-E_m-F-C-F-G-C）のコードを用いて～

2 題材について

《学習指導要領とのかかわり》

A表現（3）ア 言葉や音階などの特徴を感じ取り、表現を工夫して簡単な旋律をつくること [共通事項] ア リズム、旋律、テクスチャ

（1）題材観

今回は創作活動の導入とし、やがて音を音楽へと構成していく体験をするための創作活動の初段階として取り組む。カノン進行の和音の響きの移り変わりを味わい、旋律の特徴をとらえながら自分がどのように感じたか、また、自分の思いによって音が上行したり、下行したり、跳躍したりなど、音やリズムを自分なりに選択することで、思いや意図を持って音楽を創り上げていくことをねらいとしている。そして、自分や友人の作品に対しての思いや音を表現することで、表現力の向上に繋がっていくと考えている。

本題材で扱う「リズム」「旋律」「テクスチャ」は比較的とらえやすい音楽の諸要素であり、それらの知識を育てることは、今後の音楽の諸活動の土台を築くことと考える。

小学校のリズムによる音楽づくりは、短いリズムをつくり、反復したりつないだりして簡単な音楽にする活動や、いくつかのリズムパターンを重ねたり組み合わせたりする活動、構成を工夫しまとまりのある音楽をつくる活動などを行っている。また、和音や和声による音楽づくりは、I-IV-V（V7）を取り上げ、和音のもつ表情を感じ取る学習を行っている。

本題材では、小学校のとき学習した基本的なリズムを使用する。また、使用するコードとルールを定めている。順次進行や跳躍進行、高い音や低い音などが続いたときの音楽の特徴を感じ取り、「このような表現にしたいから、こういう音やリズムを選択した」と思いや意図を持った創作活動に取り組ませたい。級友に音で表現したり、言葉で伝えたりすることで、自分の思いやイメージが表現できたときの喜びや、活動を通して音楽への興味、関心をより深め、音楽を愛好する心情をさらに育てていきたい。試行錯誤しながら旋律をつくっていく中で、自分の手で音楽を創る楽しさを感じてほしいと考えている。

（2）生徒の実態（男子19名、女子18名、計37名）

これまで、歌唱や鑑賞、器楽（アルトリコーダー）の活動を中心に学習してきた。歌唱では混声3部合唱に挑戦し、先日行った合唱コンクールでは「カリブ夢の旅」を歌った。鑑賞では、「春」を通して、楽器の魅力を知ること、曲の雰囲気などを自分なりに考え、級友と共有する活動を行った。器楽では、演奏に必要な技術を一人一人が身に付けることを行った。このように、これまで聴く側、演奏する側として音楽と関わるが多かった。本題材では、創作活動において音楽を創りだす取組を行うことで、今までの分野では気が付けなかった思いを育てたいと考えている。

創作活動をするにあたり、音符やリズムに関するアンケートを行った。これは、小学校の学習指導要領解説の[共通事項]音符等についてに書かれている音符である。「取り扱う音符、休符、記号や音楽にかかわる用語を示したものである。指導にあたっては、単にその名称やその意味を知るだけでなく、表現及び鑑賞の活動の中で、その意味や働きを理解したり表現及び鑑賞の各活動に用いたりするようにすることが重要である」とあるが、1学年全クラスである8クラスでアンケートを行うと、「わからない。」「知らない。」の声が目立った。1年4組は学年の平均に比べて、多くの部分において正答率が高かった。

- ・ 音符名と長さを答えなさい。  の長さを「1」とする。
 (1学年 287名 6月実施)

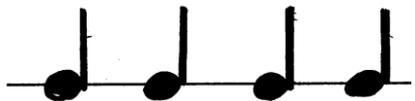
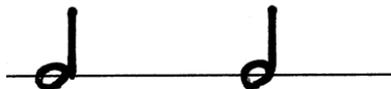
音符名	正答率	長さ	正答率
全音符	42%	4拍	56%
付点2分音符	14%	3拍	32%
2分音符	30%	2拍	55%
付点4分音符	16%	1.5拍	30%
4分音符	37%	1拍	71%
8分音符	31%	0.5拍	32%
16分音符	26%	0.25拍	25%

(1年4組 37名 6月実施)

音符名	正答率	長さ	正答率
全音符	49%	4拍	62%
付点2分音符	16%	3拍	41%
2分音符	35%	2拍	57%
付点4分音符	19%	1.5拍	35%
4分音符	46%	1拍	73%
8分音符	41%	0.5拍	38%
16分音符	30%	0.25拍	32%

- ・ 次のリズムをたたくことができるか。

(1学年 287名) (4組 37名)

リズム	正答率	正答率
	80%	95%
	80%	81%
	71%	76%
	43%	49%
	44%	43%

(3) 指導観

今回は、2分音符、4分音符、8分音符など基本的なリズムを、リズムカードを用いて確認する。リズムやカノン進行のコードの構成音から試しながら音を選ぶことで、創作活動の第一歩としたい。

リズムは14種類のリズムカードの中から1～4の比較的わかりやすい単純なリズムを使用して音を選ばせる。その後、自分の創りたい音楽のイメージに合わせるために、リズムカードの選択肢を増やし、自分の思いや意図を持って創作活動に取り組みたい。

音はコードの構成音を使用する。コードは旋律や楽曲の性格を方向づけたり決定したりするなど、重要な役割を担っていて、コードにリズムにあてはめるだけでも曲らしく感じられる。今回は「C-G-Am-Em-F-C-F-G-C」のコード進行を使用する。これは今までに聴いたことがあるだろうバッセルベルの「カノン」のコード進行である。この進行はPOPSの曲で使われることも多く、生徒に馴染みやすく、演奏するときに使用するアルトリコーダーで比較的吹きやすいと考えてこのコードを選び、ラシドレミファソの範囲から音を選べるように設定した。器楽作品のため、跳躍進行も思いや意図に沿っていけば繰り返し使っても良いことにする。

9小節の音楽を前半(C-G-Am-Em)、後半(F-C-F-G-C)にわけ、自分なりに創作した後、2人組で音楽を創る。今まで行ったグループ活動は、合唱のパート練習のみである。それよりも人数の少ないグループで活動、発表をする。個人での練習だけでなく仲間と共に考え、練習をすることで、他者との関わりの中で音楽を表現する活動となる。他者と協働しながら、音楽をつくりだしたり、表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさや価値観を考えたりしていく学習の充実を図る活動を通して、「自分たちで音を創る」という喜びを味わわせ、今後の創作活動に対する自信に繋げていきたいと考えている。

3 題材の目標

言葉や音階などの特徴を感じ取り、表現を工夫して簡単な旋律をつくる。

4 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
コード進行やコードの変化によつての雰囲気の違いなどに関心を持ち、音楽表現を工夫して簡単な旋律をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。	リズム、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、コード進行の和音の変化を感じ取って音楽表現を工夫し、どのように旋律をつくるかについて思いや意図を持っている。	コード進行の和音の変化を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて簡単な旋律をつくっている。

5 研究の視点について

【視点1】 9年間を見通した学び方の共有

リズムや和音をもとにした音楽づくりは小学校から行っている活動である。

リズムを使った音楽づくりは、「ことばでリズム」(1年)「がっきでおはやし」(2年)言葉でリズムアンサンブル(4年)リズムを選んでアンサンブル(5年)リズムをつくってアンサンブル(6年)のように、言葉や手拍子、楽器などを使い、継続的に学習している。

和音を使った音楽づくりでは、「茶色の小びん」(4年)「星の世界」(6年)などにおいて、I-IV-V-Iや、I-VI-IV-Vの和音から、音を選んで旋律をつくる活動をしている。低学年から高学年の間で、使う音の数、つくる長さ、リズムの選択、構成など、発達段階に応じて表現の幅がどんどん広がっている。

中学生になり、自分の作品や級友の作品に対して、どのような思いで創ったのか、どのような考えでこの音を選んだのかなど、作品に対する自分なりの明確な思いや意図を表現し合うことで、さらに表現力の向上へと繋げていきたいと考えている。

小学校で経験してきたリズムや和音の構成音から音を選び旋律をつくる方法を取り入れ、抵抗感なく学習に入っていけるようにした。さらに、中学2年生では「自分の思いや意図を1人で旋律に表す」ことにねらいを置き、都節音階、民謡音階、琉球音階からテーマに合うような音階を選択し、8小節の音楽をつくるようにしたい。また、中学3年生では、俳句を考え、言葉のイントネーションを手掛かりに音楽をつくるなど、様々な旋律創作の学習へと繋げていきたいと考えている。

6 題材の指導計画（3時間計画）

次	時	○学習内容 ・主な学習活動	評価規準
第1次	1時	ねらい コード、カノン進行に関心を持ち、創作活動に主体的に取り組む。	
		<ul style="list-style-type: none"> ○リズムカードのリズムを復習する。 ・リズム打ち練習を繰り返し行う。 ○アルトリコーダーの指使いを復習する。 ・使用する音を練習する。 ○カノン進行を知る。 ・コードの仕組み、流れを知る。 ○リズムパターンからリズムを選ぶ。 ・4つのリズムパターンからリズムを選ぶ。 ○コードから音を選ぶ。 ・2人で前半後半を決め、3つの音から音を選ぶ。 	<p>コード進行やコードの変化によつての雰囲気の違いなどに関心を持ち、音楽表現を工夫して簡単な旋律をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。（音楽への関心・意欲・態度）</p> <p>コード進行の和音の変化を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて簡単な旋律をつくっている。（音楽表現の技能）</p>
第2次	2時 (本時)	ねらい 順次進行、跳躍進行の特徴を生かして、旋律を創る。	
		<ul style="list-style-type: none"> ○前時の復習をする。 ・リズム打ちを行う。 ・アルトリコーダーを吹く。 ・前時作成した自分の音楽を吹く。 ○旋律を比較し、鑑賞する。 ・順次進行 ・跳躍進行 ○ペアでお互いの音楽を聞きあう。 ・工夫した点を伝え合う。 ○テーマを決める ・テーマに合うように、音やリズムを選ぶ。 	<p>リズム、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、コード進行の和音の変化を感じ取つて音楽表現を工夫し、どのように旋律をつくるかについて思いや意図を持っている（音楽表現の創意工夫）</p>

	3時	ねらい ペアで工夫した点を表現し、級友の音楽の良さを感じ取る。	
		○前時の復習をする。 ・リズム打ちを行う。 ・アルトリコーダーを吹く。 ・前時作成した自分の旋律を吹く。 ○練習する。 ・ペアで音楽の流れを確認しながら吹く。 ○つくった旋律を発表し合い、よさを共有する。 ・級友の音楽を聴き、良さを感じとる。	リズム、旋律、テクスチュアを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、コードの特徴を感じ取って音楽表現を工夫し、どのように旋律をつくるかについて思いや意図を持っている。(音楽表現の創意工夫) コードの特徴を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて簡単な旋律をつくらせている。(音楽表現の技能)

7 本時の学習 (2 / 3)

(1) 本時の目標

- ・順次進行、跳躍進行の特徴を生かして、旋律をつくろう。

(2) 展開

学習内容と学習活動	○教師との関わり ◆評価規準 (評価方法)
1 校歌を歌う。	○歌う姿勢や発声を確認しながらのびのび歌わせ、明るい雰囲気作りをする。
2 前時の復習をする。 ・リズムカードの復習をする。 ・アルトリコーダーの復習をする。 ・前時に作った自分の旋律を吹く。	○前時の確認をし、復習をすることで学習の意欲を高める。
3 旋律を比較し、鑑賞する。 ・順次進行 ・跳躍進行 ・上行形 ・下行形	○旋律を聴き、どのような違いがあり、どのような変化があったのか考えさせる。 例. ・順次進行→なめらかな動きで落ち着いた感じ。 ・跳躍進行→動きがたくさんあり、広がっている感じ。 ・上行形→音が高くなることで、明るく、元気な感じ。 ・下行形→音が下がっていくことで、落ち着く感じ。
4 本時の課題を知る。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">イメージに合った旋律をつくろう</div>
5 お互いの音楽を聴く。 ・前半が4小節吹く。 ・後半が4小節吹く。	○4小節聴いて、どのような工夫があったのか伝え合う ・良かった点、面白いと思った点、工夫していた点など、気づいたところを述べ合う。
6 ペアで話し合い、音を決める。 ・テーマを決める。 ・テーマに合うような音の選び方、リズム	○ペアで自信を持って表現できるように練習させる。 ○リズム、音の組み合わせ方など変えてよいことを伝える。 ○とまどっている生徒には個別に助言する。

<p>ムの選び方を考える。</p> <p>7 ペアで練習をする。</p> <p>8 何組か中間発表を行う。</p>	<p>【支援方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズムがわからない→手でたたいて確認。 ・音がわからない→リコーダーの指使いの確認、練習。あまりにも困難そうな場合は音を変更。 ・テーマが決まらない→2人に合いそうなテーマを考える。 ・テーマがあるが、うまく音にできない→実際に吹き、イメージに近いものを選ばせる。 <p>○前半、後半を繋げて練習する。</p> <p>○どこがよかったのかを考えさせ、自分たちの演奏に生かせるようにする。</p> <p>◆リズム、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、コードの特徴を感じ取って音楽表現を工夫し、どのように旋律をつくるかについて思いや意図を持っている。(音楽表現の創意工夫)</p>
<p>8 振り返りプリントを記入する</p>	<p>○本時の自己評価をさせる。</p>